

中学校音楽

1 教育課程の改善のポイント

- 指導のねらいを一層明確にし、感じ取ったことを基に、思考・判断し表現する一連の学習過程を重視する。
- 我が国の音楽文化の指導を重視する。
- 音楽科の学習に即して、言葉の活用を図る。

2 全面実施に向けて取組が求められること

(1) 移行期間における指導のポイント

ア 歌唱共通教材は、各学年ごとに1曲以上含めましょう。

- ・〔共通事項〕にしっかり目を向けて、曲に親しむだけでなく、曲想を生かして表現すること(思いや意図を膨らませること)ができるようにすることにより、ただ単に歌うだけの活動にならないよう留意しましょう。
- ・歌唱共通教材以外の歌唱教材の選択に当たっては、生徒の興味・関心等の実態を十分配慮することにより、歌唱の楽しさを味わうことができるようにしましょう。

【歌唱共通教材】

「赤とんぼ」(三木露風作詞 山田耕筰作曲) 「荒城の月」(土井晩翠作詞 滝廉太郎作曲)
「早春賦」(吉丸一昌作詞 中田章作曲) 「夏の思い出」(江間章子作詞 中田喜直作曲)
「花」(武島羽衣作詞 滝廉太郎作曲) 「花の街」(江間章子作詞 團伊玖磨作曲)
「浜辺の歌」(林古溪作詞 成田為三作曲)

イ 2年生は新学習指導要領に対応した年間指導計画で実施しましょう。

- ・表現及び鑑賞の各題材を、「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の各領域の指導事項と〔共通事項〕とで構成しましょう。
- ・〔共通事項〕の指導に当たっては、そのみを単独に扱うのではなく、表現や鑑賞の実際の音楽活動としっかりとかわらせましょう。

(2) 適切な年間指導計画の作成と題材構成の工夫

ア 次の観点から今年度の自校の年間指導計画を見直し、再構成しましょう。

- ・特定の領域に偏ることなく、年間を通して、「歌唱」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の各領域の学習のバランスがとれているかどうかについて確認しましょう。特に、「創作」や「鑑賞」の指導が適切に行われるよう配慮しましょう。
- ・各題材における指導の内容の重点化を図るとともに、題材相互の学習内容の関連や学年間の系統性に十分留意しましょう。

イ 各題材の指導に〔共通事項〕を適切に位置付けましょう。【資料１】【資料２】

- ・〔共通事項〕は、表現及び鑑賞のすべての学習の中で、共通に指導すべき内容です。各領域の指導事項と〔共通事項〕で示しているア、イとの関連を図って題材を構成することが必要になります。〔共通事項〕を指導計画に明確に位置付けることにより、各題材における指導内容の重点化を図ることができます。
- ・各活動においては、〔共通事項〕のアに示されている音楽を形づくっている要素の中から、題材を指導する上で特に重要となるものを取り扱うことが大切です。
- ・表現と鑑賞との関連を図った題材を構成する際には、表現活動と鑑賞活動の両方に共通して重点的に指導する共通事項を精選して位置付けましょう。
- ・〔共通事項〕のイに示された音楽を形づくっている要素やそれらの働きを表す用語や記号などは、生徒の実態に即して、３年間を通じて音楽活動とかかわらせながら理解できるように指導しましょう。
- ・音楽的な感受の能力や表現を工夫する能力とは、表裏一体のものであり、互いに深くかかわり合っています。共通事項を学習の切り口として、音楽から感じ取ったものを表現活動に生かしていくことは、思考・判断し表現する一連の学習過程を大切にした音楽科の学習を実現する上で非常に意義のあることです。

ウ 「創作」の学習を積極的に行いましょう。【資料３】

- ・〔共通事項〕に着目して「創作」に取り組むことは、音楽に対する感性を高める上で非常に大切なことです。「創作」の学習を年間指導計画に必ず位置付け、指導の充実を図りましょう。
- ・「創作」の学習では、高度な曲を作ることを目指すのではなく、一つ一つの音を有機的なまとまりのある音楽へと構成する過程を大切にしましょう。

エ 「鑑賞」の学習では、１年生では言葉で説明する活動を、２、３年生では根拠をもって自分なりに批評したりする活動を取り入れましょう。

- ・〔共通事項〕などに示されている内容を根拠としてあげながら、音楽のよさや美しさなどについて言葉などで表すことが大切です。その際、①「自分なりの感じ方が含まれているか」、②「客観的な根拠が含まれているか」、③「自分にとっての価値が含まれているか」などを視点として表すことができるようにしましょう。

オ 生徒が思いや意図をもって表現できるようにしましょう。

- ・「歌唱」や「器楽」の学習では、生徒が、どのように歌ったり演奏したりしたいかという思いや意図を明確にもたせることが大切です。思いや意図が明確になることにより、生徒の表現活動に対する取組も一層主体的になることが期待できます。
- ・生徒の思いや意図を実際の音として表現するためには、表現の技能を身に付けさせることが必要になります。思いや意図を表現するための手段としての表現の技能の指導をしっかり行いましょう。

カ 我が国の音楽文化の指導を取り入れましょう。

- ・和楽器の指導については、単に楽器に触れるだけの活動に終わってしまうのではなく、3学年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫しましょう。
- ・我が国の音楽の学習は、「鑑賞」では小学校3・4年生から、「表現」では小学校5・6年生から行われています。校区内の小・中学校で互いの指導計画について情報交換し合うなどの場を確保することにより系統的な指導が行えるようにしましょう。
- ・我が国の音楽文化の指導を行う際には、視聴覚機器などの有効活用を図りましょう。

キ 互いの思いを深め合うことができるようにするための指導を工夫しましょう。

- ・生徒が、音楽から感じ取った自分の思いなどを生徒同士で言葉などを媒体として互いに伝え合うなどの活動を取り入れることにより、音楽を一層深く感じ取る能力を伸長することが可能になります。言葉などを媒体として、生徒同士が積極的に思いなどを深め合うことができる活動を取り入れましょう。

ク 学校の特色や生徒の実態を踏まえた指導計画を作成しましょう。

- ・教科書会社から参考例として示されている指導計画をそのまま用いるのではなく、学校の特色や生徒の実態等を踏まえるとともに、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを明確にした指導計画を作成しましょう。

ケ 小中学校9年間を見通した系統的な指導計画を作成しましょう。

- ・義務教育の9年間の音楽学習で児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせるのかを明確にした上で、校区内の小学校との連携を密にしながら、系統的な指導計画を作成しましょう。

(3) その他

ア 新しく入ってきた内容を指導するための教材や教具等、教育環境を整備しましょう。

- ・「表現」や「鑑賞」の学習を効果的に行うために必要な楽器や資料等の整備に計画的に取り組みましょう。

【参考資料】

○年間指導計画例(第2学年)【資料1】

○年間指導計画例(マトリックス表)(第2学年)【資料2】(埼玉県教育委員会作成)

○「創作」の指導例(群馬大学教育学部附属中学校)

【資料 1】

音楽科年間指導計画　〔中 2 年〕

[中学校音楽科の目標] 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				[2. 3 年の目標] (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。				学習指導要領の内容（指導事項）																							
				A 表 現			B 鑑賞	〔共通事項〕																							
				歌 唱		器 楽		創 作																							
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ		強弱	形式	構成								
				歌唱・器楽・創作・鑑賞の各分野の学習がバランスよく行われるようにしましょう。																											
																どの題材の学習においても〔共通事項〕を位置付けます。															
月	◎題材・教材	時	題材の目標	題 材 の 評 価 規 準																											
				音楽への関心・意欲・態度			音楽的な感受や表現の工夫			表現の技能			鑑賞の能力																		
4 5	◎音楽の楽しさを味わおう ・ラヴァースコンチェルト ・メヌエット ・心の中にきらめいて ・鑑ラヴァースコンチェルト ・鑑ピアノソナタ第8番	4	親しみやすい曲とそれに関連する音楽に触れ、より幅広く、より深く音楽を楽しむとする意欲をもつ。	楽曲の特徴に関心をもち、自己のイメージを生かして意欲的に活動に取り組んでいる。			編曲による拍子やリズム等の変化で曲の雰囲気が変わるおもしろさを感じ、自己のイメージを生かして表現を工夫している。			原曲との雰囲気の違いを感じ取り、自己のイメージを表現する技能を身に付けている。			リズムや拍子の特徴、リズムパターンの反復や変化の働くと曲想との関わりを理解し、楽曲全体のよさを味わっている。																		
6	◎音のつながりを工夫してリコーダーで旋律をつくらう	2	リズム、音階、奏法などを生かし、音のつながり方を工夫して旋律をつくる。	音のつながりに関心をもち、リコーダーで旋律をつくる活動に意欲的に取り組んでいる。			リズム、音階、奏法などを生かし、音のつながり方を工夫している。			リズム、音階、奏法などを生かして創作表現をする技能を身に付けている。																					
	◎オーケストラの響きの豊かさと楽曲構成の特徴を感じ取ろう ・鑑交響曲第5番	2	楽曲の構成の特徴を感じ取って鑑賞する。	動機的发展による曲の構成や管弦楽の豊かな響きに関心をもち、聴いている。			動機の反復や変化による曲の構成と曲想とのかかわりを感じ取っている。						動機の反復や変化と曲想との関わりを理解し、楽曲全体の味わいを言葉で書いている。																		
7	◎日本の歌のよさを感じて表現しよう ・浜辺の歌 ・夏の思い出 ・鑑荒城の月		日本の歌のよさを味わうとともに、言葉と旋律の関係の効果を感じ取る。	言葉と音楽の関係に関心をもち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組んでいる。			日本語の美しさや旋律と伴奏とのかかわりの効果を感じ取って、曲にふさわしい歌唱表現を工夫している。									日本語の美しさや伴奏の効果を生かして表現する技能を身に付けている。			歌詞の意味、背景にある情景や心情、詩の構成を意識しながら楽曲を聴き取っている。												
9 10	◎旋律のまとまりを感じ、リコーダーアンサンブルを楽しもう ・Yesterday		楽曲の構成や曲の構成の特徴を感じ取って表現する工夫をする。	楽曲の構成に関心をもち、表現している。			旋律のまとまりや曲の構成に気づき、それを生かした表現を工夫している。			旋律のまとまりや構成を生かして曲にふさわしい器楽表現をする技能を身に付けている。																					
11	◎混声合唱の喜びを感じて曲想豊かに表現しよう ・時の旅人 など （校内音楽祭自由曲） ・鑑Soon-ah will be done	6	混声合唱の響きの豊かさを生かし、活動に意欲的に参加する。	声の響きの豊かさに関心をもち、活動に意欲的に参加している。			声の響きの多様な美しさや、声部の組み合わせによる変化を感じ取って表現を工夫している。			豊かな響きの声で表現するための技能を身に付けている。			声の響きの多様な美しさを感じ取って鑑賞している。																		
12	◎総合芸術の魅力を味わおう ・鑑オペラ「アイーダ」 ・鑑文楽「義経千本桜」 ・鑑歌舞伎「勧進帳」	3	その背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて聴き、音楽の多様性を理解して、そのよさや美しさを味わう。	その背景となる文化・歴史や美しさを味わう活動に意欲的に取り組んでいる。			それぞれの音楽の特徴を感じ取っている。						それぞれの音楽のよさや美しさを感じ取って、自分なりに批評文に書いている。																		
1	◎歌詞にふさわしい旋律作り	3	言葉のもつ特性を生かした自然なリズム、抑揚やアクセントを生かして旋律を創作する。	自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低などを感じ取っている。			自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低などを感じ取っている。									自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低などに気を付けて創作表現をする技能を身に付けている。															
2 3	◎様々な民謡の魅力を味わおう ・鑑日本の民謡 ・鑑世界の民族音楽 ・ソーラン節 ・草津節		世界の諸民族の歌声や日本各地の民謡に親しみ、そのよさや美しさを味わう。	世界の諸民族の歌声や日本各地の民謡に関心をもち、聴いている。			世界の諸民族の歌声や日本各地の民謡の特徴を感じ取っている。			曲種に応じた発声で、曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身に付けている。			日本の民謡や世界の音楽の特徴を理解し、楽曲を聴き取っている。																		
	◎心を込めて表現しよう ・若い翼は ・心の中にきらめいて	3	豊かな響きと美しいハーモニー曲想や歌詞の内容を理解し、心を込めて表現する。	歌詞の内容や曲想に関心をもち、意欲的に合唱練習に取り組んでいる。			歌詞の内容や曲想を感じ取って、合唱の表現を工夫している。			歌詞の内容や曲想を生かして合唱表現をする技能を身に付けている。																					

【資料2】

年間指導計画例
5年1学期表（第2学年の例）

学 年 目 標	第2学年の目標			学 習 内 容												
				A 表 現						B 鑑 賞			〔共通事項〕			
				(1) 歌唱		(2) 器楽		(3) 創作								
				ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ
				(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。	(2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。	(3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。	歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。	曲種に応じた発声や言葉の特性を理解し、それらを生かして歌うこと。	声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。	楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。	声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	音楽や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。	表現したいイメージをもち、音楽材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。	音楽を形づくっている要素や構成と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。
月	題 材 名	主 教 材	時													
4	気持ちを込めて表現しよう	夢の世界を 他	4	○	◎	◎									音色 リズム	拍子 6 8
5	全体の響きを聴いてグルーブ合奏しよう	Show Me Your Firetruck 他	4				○	◎	◎	◎・○は、その題材で指導する事項。 特に◎は中心となる指導事項。					音色 速度 旋律 テクスチュア 構成	コード D.S. 和音
6	情景を想像して表現を工夫しよう	浜辺の歌 荒城の月	4	◎	◎	○									強弱 音色 速度 旋律 形式	Andante rit. フレーズ
7	言葉の抑揚を生かした旋律をつくろう			○						◎		○	○		旋律 リズム	音符 休符
8	豊かな合唱表現を追究しよう	時の旅人 他	5	◎	◎	◎									音色 速度 旋律 テクスチュア 強弱 形式 構成	和音 フレーズ テスート フェルマータ rit. accel.
9	和楽器の響きを感じ取ろう	さくら 六段の調	5				○	◎						○	音色 リズム 旋律 速度	間 序破急
10	オーケストラの豊かな表現を味わおう	交響曲第5番ハ短調	2									◎	◎		旋律 リズム テクス チュア 形式 構成	動機 legato
11	総合芸術の多様な表現を味わおう	歌舞伎「勘十郎」 歌劇「アイダ」	3	○	◎								◎	◎	音色 旋律 速度 リズム	拍 間 序破急
12	ボディーパーカッションを楽しもう	ジョイフルコンビネーション	4				◎		◎						リズム 強弱 テクス チュア 形式 構成	音符 休符 dim.
1	豊かな響きの混声合唱をしよう	旅立ちの日に 仰げば尊し	4	◎	◎	◎									速度 リズム テ クスチュア 音色	三連符 Moderato

各指導事項において取り扱う〔共通事項〕を示す。
3学年間でバランスよく取り扱うよう配慮する。

特定の指導事項に偏らないように配慮する。

中学校音楽科【創作】指導例

授業の視点

使用する音を二音から三音へ広げる際に、学習カードを基に詩の抑揚を考えたことは、自己のイメージを基に、言葉や五音音階の特徴を生かして、音程の取り方を工夫させるために有効であったか。

I 実施学年 第3学年

II 題 材 自分の想いを音で表そう

III 目 標

○抑揚・アクセント・リズムなどの言葉の特徴と、五音音階の構成音によって生み出される独特の雰囲気などの音階の特徴を理解し、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、わらべ歌をつくる。

IV 評価規準

- 言葉や五音音階の特徴を見出したり、自己のイメージを生かしてわらべ歌をつくったりすることに、意欲的に取り組んでいる。(音楽に対する関心・意欲・態度)
- 抑揚・アクセント・リズムなどの言葉のもつ特徴や五音音階の独特な雰囲気を感じ取り、音の配列を工夫してわらべ歌をつくっている。(音楽的な感受と表現の工夫)
- 自己のイメージを基に、言葉や五音音階の特徴を生かして、創作表現をする技能を身に付けている。(表現の技能)

V 指導方針

○本校音楽科の研究主題「自らのソルフェージュ力を生かして、豊かな音楽を創造することができる生徒の育成」に迫るために、本題材では、自己の想いやイメージを旋律やリズムを基に創造する力を高められるようにする。そのために、五音音階でつくられているわらべ歌を取り上げ、普段身近に感じているわらべ歌の音階の構造や言葉の特徴を理解し、自己のイメージをわらべ歌で表現する創作活動を行う。これにより、旋律をつくる楽しさや喜びを実感できるようにするとともに、合唱などの表現活動や鑑賞活動を行う際に、その楽曲の構造を理解していこうとする態度を養っていく。

○題材全体を通して、五音音階を用いた聴音や視唱を取り入れることで、音階の構造と特徴を理解したり、ソルフェージュ力の伸長を図ったりすることができるようにする。体系的に身に付けていく「ソルフェージュ力」を活用していくことにより、視奏から五音音階の特徴を実感したり、表現を追究する際に試行表現をして、音の配列による違いを感じ取ったりしながら、創作活動を深めることができるようにする。

○本題材において、生徒が課題意識をもって学習を進めるためには、必要な知識を身に付け、活用し、発展させていくという「習得－活用－探究」という一連の学習活動の流れに沿って行う。そのために、「受容」「課題の設定」「学習計画の立案」「課題の追究・解決」「発表・評価」「発展」の六つの段階を設定し、学習を進めていけるようにする。

○「受容」及び「課題の設定」の段階では、楽譜を見ながら、わらべ歌「かもめかもめ」、「あんたがたどこさ」、韓国の子守唄、「Amazing Grace」(アメリカ古歌／ジョン・ニュートン作詞)を聴かせたり、斉唱させたり、個別キーボードで演奏させたりして、これらの曲が五つの音で構成されていることに気付けるようにする。その際、読譜の苦手な生徒には五つの音をシールで示した個別キーボードを用意し、無理なく演奏できるようにする。

○教師が＜創作活動のための手順例～わらべ歌編～＞を用いて作曲した曲を紹介したり、実際に演奏したりして、生徒の創作活動への意欲を高め、学習課題「自分の想いをわらべ歌で表そう」を設定できるようにする。そして、小さい頃に歌っていたわらべ歌を思い出させたり、教師がつくった詩を提示したりすることで、自分が小さな子どもに歌ってあげたいわらべ歌のイメージを7文字×2行の詩で表せるようにする。その際、思いついたことを記録することができる欄を設けた学習カードを用いたり、一つの素材についてイメージしたことを全体で話し合う場を設けたりして、自由な発想でイメージを広げることができるようにする。

○「学習計画の立案」の段階では、生徒が自分に合った創作方法を考え、活動に見通しをもつことができるよう、「創作活動のための手順例～わらべ歌編～」を提示する。手順例の中に用いる五音音階は、日本で歌い継がれている代表的なわらべ歌に用いられているC－D－F－G－A(ドレファソラ)とし、個別キーボードで弾いたり、視唱したりする際に無理なく演奏することができるようにする。

○意見交換の活発化と、男女の比を考えて学級で仕事を受けもっている6～7名の係ごとにグループを作り交流の場を設定していくことで、創作活動の中で友達の新しい発想を取り入れることができるようにする。

○「課題の追究・解決」の段階では、まず、自分が作成したわらべ歌の詩を何度か読み、抑揚、アクセントの位置、リズムを確認することができるようにする。その際、「読み方」がすでに創作活動であることを伝え、正しいイントネーションで発音できるようにする。

○読んだ歌詞の抑揚に合わせて、高いか低いかの二種類に分けて音を付けられるよう、二つの音（F－G）に限定して「ふし」を付けることができるようにする。その際、旋律の最後の音によって曲の雰囲気が変わることが理解できるよう、グループリーダーの作品の最後の音を変えて演奏したものを全体で聴き、雰囲気の違いを実感することができるようにする。

○二つの音でつくった旋律のいずれかの音を三つ目の音（レまたはラ）に変えて旋律をつくることによって、旋律づくりを発展させることができるようにする。その際、三つ目の音を用いる根拠を、自分が伝えたい「言葉」に求めることで、自己のイメージを音楽づくりに生かすことができるようにする。そのため、グループ内でその箇所に三つ目の音を用いた理由を具体的に話し合わせることで、言葉の抑揚や作品に対する個々の想いをグループ全体で確認することができるようにする。そして、同様に四つ目、五つ目の音を用いてわらべ歌をつくることで、音の数や種類を広げたわらべ歌づくりの学習を深めていくことができるようにする。また、歌詞の続きを考えて旋律をつくることができるよう学習カードに五線を設け、生徒の実態に応じて曲の長さを自分で決めることができるようにする。

○三つ目の音を用いる根拠をうまく見いだせない生徒には、ICレコーダーに録音した発音を聞かせたり、詩の中で特に伝えたい語を選ばせたりして、自己のイメージを深められるようにする。

○読譜力の高い生徒や創作活動に意欲的な生徒に対しては、グループ内の中心となって、課題追究のために個別キーボードを演奏させたり、必要に応じて他の生徒の創作活動へのアドバイスをさせたりすることによって、リーダーとして活躍させる機会を増やすことができるようにする。

○「発表・評価」の段階では、グループごとに発表を行い、作品に対する自己評価と相互評価をすることができるようにする。その際、評価カードを準備し、抑揚・アクセント・リズムなどの言葉の特徴を生かしている点、五音音階の構成音でつくられている点、そして作曲した生徒が大切にしようとしたイメージは何か、の三つに観点を絞って評価することができるようにする。

○「発展」の段階では、これまでにふれなかった世界各地の五音音階を紹介したり、生徒が作曲したわらべ歌の音列を、沖縄民謡に用いられる五音音階に当てはめて演奏したりすることにより、五音音階への興味を更に広げられるようにする。

Ⅵ 指導と評価の計画（全4時間予定）

時	主な学習活動 【教材・指導の工夫】	習得させる 知識・技能等	●活用させていくための手だて ○配慮事項 【◀ 活用する知識や技能等】 【▶ 今後活用される場面】
1	①「受容」の段階 ○「かもめかもめ」などの様々な五音音階の曲や、五音音階の構成音にふれる。 【楽器の準備、楽譜の準備】 ②「課題設定」の段階 ○学習課題を設定し、わらべ歌にする詩をつくる。 学習課題「自分の想いをわらべ歌で表そう」 【学習カード】 ③「学習計画立案」の段階 ○グループをつくり創作活動に見通しをもつ。 【学習カード】	○五音音階が生み出す独特な雰囲気を感知する力 ○自己のイメージを広げる力 ○創作手順から、活動に見通しをもつ力	●楽譜を見ながら五音音階でつくられた曲を聴かせたり、演奏させたりして、これらの曲が五つの音で構成されていることに気付けるようにする。 【◀ 読譜力、視奏力】 【▶ 発表・評価の場面】 ○読譜の苦手な生徒には五つの音をシールで示した個別キーボードを用意し、無理なく演奏できるようにする。 ○「創作活動のための手順例～わらべ歌編～」を用いて作曲した曲を紹介したり、実際に演奏したりして、生徒の創作活動への意欲を高める。 ●自分が小さな子どもに歌ってあげたいわらべ歌のイメージを7文字×2行の詩で表せるようにする。 【◀ これまでにふれたわらべ歌から得た知識】 【▶ 課題追究・解決の場面】 ○「創作活動のための手順例～わらべ歌編～」を提示し、手順に沿って進めていく創作活動に見通しをもたせる。
2 本時はその1	④「課題の追究・解決」の段階 ○学習計画に沿って、自己のイメージに基づいたわらべ歌をつくる。 【学習カード】	○自己のイメージに基づいて、言葉と五音音階の特徴を生かしてわらべ歌をつくる力	●無理なく段階的に創作活動を行うことができるよう、学習カードの手順を工夫する。 【◀ 手順例に従って作曲する能力】 ●グループ内でその箇所に三つ目の音を用いた理由を具体的に話し合わせることで、言葉の抑揚や作品に対する個々の想いをグループ全体で確認することができるようにする。 【◀ 自己のイメージを広げる力】 ○生徒の実態に応じて曲の長さを自分で決めることができるようにする。
1	⑤「発表・評価」の段階 ○グループごとに発表し、作品に対する自己評価と相互評価を行う。 【評価カード】 ⑥「発展」の段階 ○これまでにふれなかった五音音階にふれる。	○様々な五音音階による作品のよさを感じ取る力	●評価カードを準備し、三つに観点を絞って評価することができるようにする。 【◀ 言葉、五音音階、イメージを観点に聴き取る能力】 ○ICレコーダーで録音し、振り返り活動や次年度の学習に生かせるようにする。 ○世界各地の五音音階を紹介したり、生徒が作曲したわらべ歌の音列を、沖縄民謡に用いられる五音音階に当てはめて演奏したりすることにより、五音音階への興味を更に広げられるようにする。

VII 本時の学習指導（2／4）

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 目 標 | 自己のイメージを基に、言葉や五音音階の特徴を生かして音程の取り方を工夫し、わらべ歌で使用する音を二音から三音へ広げていく。 |
| 2 | 準 備 | 楽譜、聴音カード、学習カード、評価カード、個別キーボード、IC レコーダー |
| 3 | 展 開 | <p>※●は特に本授業で重点を置いて行う活用させるための指導・支援や教材の工夫を示す。</p> <p>※「◀」は活用させるもの、「▶」は今後活用されていく場面を表す。</p> <p>※◇は「補充的な学習」、◎は「発展的な学習」のための指導・支援を示す。</p> |

ねらい（時間）	生徒の活動	支援及び留意点・評価
1 クラス合唱曲を合唱させ、音楽学習の雰囲気をつくる。（10分） （以上 常時活動） 2 これまでの活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。（10分） 3 グループごとに考えた詩に二音や三音でふしを付けたり、三つ目の音を用いた根拠をグループごとに伝え合ったりして、自己のイメージに基づいた三音のふしを考えさせる。（20分）	○教師の指示でリーダーを中心に発声の基本練習を簡単に行う。 ○詩の内容から、作曲する上で工夫されている点を見いだす。 ○全曲を合唱し、自分が正確に音程を取ることができない部分や、全体的に音程がずれる部分を確認する。 ○五音音階について振り返り、聴音練習を行う。 ○学習カードに書かれている「創作活動のための手順例～わらべ歌編～」を見て、創作活動に見通しをもつ。 ○「創作活動のための手順例～わらべ歌編～」に沿って、追究活動を進める。 <創作活動のための手順例～わらべ歌編～> ①詩の抑揚を記入しよう。 （例） _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ かえるがなくよ ケロケロなくよ ②二つの音で、「ふし」を付けよう。 ③三つの音で、「ふし」を付けよう。 ④なぜ、その音を三つ目の音に変化させたのか自分の想いを伝え合おう。 ○二音のふしと、三音のふしを発表し、三つ目の音を用いる根拠を伝え合う。 <生徒の反応①> ・私は一回目と二回目の「なくよ」の違いが表現したいから、二回目の「な」の音を低くしました。 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ — かえるがなくよ ケロケロなくよ <生徒の反応②> ・ぼくは、かえるが高い声で「ケロケロ」鳴く様子を表現したいから、高い二つの音を使いました。 _ _ _ _ _ _ _ _ — — — — _ _ _ _ かえるがなくよ ケロケロなくよ	○それぞれの発声練習の意味を確認し、目的意識をもって練習に取り組めるようにする。 ○合唱する前に、瀬戸内寂聴の詩を朗読させ、この曲がもつ独特な雰囲気を感じ取らせることで、千原英喜氏が様々なテンポや調性を用いて作曲した理由を理解できるようにする。 ○前時までの学習を生かし、他の声部を聴いて合唱させることで自分のパートの音程を意識できるようにする。 ○聴音カードに補助音を書いたものと書いてないものを準備し、自分のソルフージュ力に合わせてカードを選択できるようにする。 ○自分が作成したわらべ歌の詩を何度か読み、抑揚、アクセントの位置、リズムを確認することができるようにする。グループ内で学習カードを回して抑揚を確認し合ったり、I Cレコーダーを用いたりして、正しい抑揚を記入できるようにする。その際、「読み方」がすでに創作活動であることを伝え、正しいイントネーションで発音できるようにする。 ○読んだ歌詞の抑揚に合わせて、高いか低いかの二種類に分けて音を付けられるよう、二つの音（F - G）に限定して「ふし」を付けることができるようにする。その際、旋律の最後の音によって曲の雰囲気が変わることが理解できるよう、グループリーダーの作品の最後の音を変えて演奏したものを全体で聴き、雰囲気の違いを実感することができるようにする。 ○二つの音でつくった旋律のいずれかの音を三つ目の音（レまたはラ）に変えて旋律をつくることによって、旋律づくりを発展させることができるようにする。 ○グループ内で二音のふしと、三音のふしを発表し合い、言葉の特徴が伝わりやすくなったかを確認することができるようにする。その際、発表する生徒は学習カードの記述を基に三つ目の音を用いる根拠を伝え、聴く生徒はその根拠に基づいて三つ目の音が用いられているかを観点に聴くことができるようにする。 ●グループ内で学習カードの記述を基にその箇所に三つ目の音を用いた理由を具体的に話し合わせることにより、言葉の抑揚や作品に対する個々の想いをグループ全体で確認することができるようにする。三つ目の音を用いる根拠を、自分が伝えたい「言葉」に求めることで、自己のイメージに基づいた三音のふしを考えることができるようにする。 【◀ 自己のイメージを広げる力】 【➡ 四つ目、五つ目の音を用いる追究活動の場面】 【表】自己のイメージを基に、言葉や五音音階の特徴を生かして、三つの音の音程の取り方を工夫している。 （観察、学習カード） ◇三つ目の音を用いる根拠をうまく見いだせない生徒には、I Cレコーダーに録音した発音を聞かせたり、詩の中で特に伝えたい語を選ばせたりする。 ◎意欲的に追究活動を行える生徒には、活動をリードできるよう、友達の作品のよさを積極的に紹介させたり、必要に応じて個別キーボードで演奏させたりする。 ○他のグループの発表を聞き、自分たちの追究活動では得ることができなかった新しい知識を学習カードに記録させることで、次時の追究活動に生かすことができるようにする。 ○次時は、四つ目、五つ目の音を用いてわらべ歌を完成させたり、発表に向けてグループ内で完成したわらべ歌を演奏し合い作品を改善していく活動を行うことを伝え、学習の見通しをもたせる。
4 本時の追究内容を発表させる。（5分） 5 次時の学習内容を確認し、今後の学習への見通しをもたせる。（5分）	○グループでの追究活動を振り返り、創作活動の際に気を付けた点や新たに見いだした点を発表する。 ○次の時間の学習内容について理解し、次時の学習の見通しをもつ。	

